



代表取締役社長 鈴木賢一氏

# アルタン 柿渋タンニンを活用した新製剤 「アルタンノロエース」発売へ

アルコール除菌剤分野での経験豊かなアルタン(株) (本社・東京)は、抗ノロウイルスアルコール除菌剤「アルタンノロエース」を発売した。卓越した効果と「安心・安全な抗ノロウイルス剤」として注目されている。

## ノロウイルスを99%消滅

アルタン(株)は、1981(昭和56)年設立の食品産業向け業務用環境衛生管理のための製剤・医薬部外品の製造販売会社。エタノール製剤・食品添加物、食品機械用製品、クリーナー製品など衛生管理に貢献する多彩な商品をラインアップしている。

同社は、日ごろから安心安全(低濃度アルコール仕様)で、かつより除菌力のある製剤の開発をモットーに技術革新を進め

てきており、その成果として3年前に「アルタンバツファー58」を製品化した。これでアルコール製剤は数倍に薄まっても除菌でき、除菌力も持続させることが可能になったが、これに抗ノロウイルス効果も保持させられたら鬼に金棒であるとの一念で、「アルタンノロエース」の開発に心血を注ぎ込んできた。

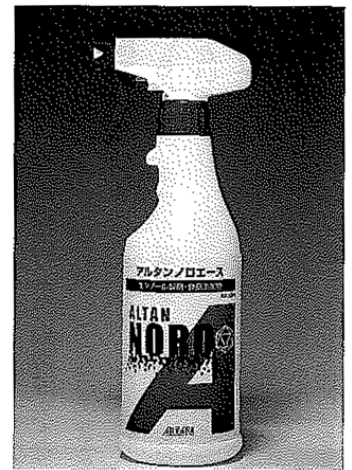
11月に発売の「アルタンノロエース」の開発は、この「バツファー58」がベースになったもので、広島大学との共同開発により、99%ノロウイルスを消滅させることが実証された。抗ノロウイルスアルコール除菌剤が商品化された。調理器具・調理機械に噴霧することで、抗ノロウイルス効果並びに持続的な除菌作用を発揮する。9月26・27日に東京・品川総合区民会館で開催された「第28回 日本食品微生物学会・学術総会」で、共同研究にあたった広島大学、島本整准教授が、「柿抽出物含有のエタノール製剤がノロウイルスを99%分解消滅させることを検証した」と、共同研究の成果を発表、「アルタンノロエース」の優れた効果が公表された。現在、共同で

特許出願している。

アルタンの鈴木賢一社長は、「ノロエース」開発までのプロセスと製剤の特徴について、次のように語る。

「アルコール除菌剤分野では経験の深い当社と、ノロウイルスの学術的な研究分野では、日本の学会をリードしている広島大学とで意見が一致し、数年前から共同研究を始めたのです。特に、私どもが発見した柿抽出物が抗ノロウイルス効果があるというところを、大学研究室が実験を重ねてノロウイルスを直接攻撃して分解消滅させる作用があることを実証して、学会発表までしていただけなのです。この実験は、一般的にはネコカリシウイルスを代用して検証するのですが、広島大学では、人体から排泄したノロウイルスを使って実験した結果で、99%以上の消滅効果を検証したのです。食品と食品添加物素材だけを使った、この新製剤は、安心・安全な抗ノロウイルスアルコール除菌剤と言えます」

ウイルスの消滅度合いを定量分析した数値であり、一般的に行なわれている定



〈問い合わせ先〉

アルタン(株)

☎03-3743-5705

性分析に比べると極めて信びよう性が高いのが特徴。

この定量分析では、完全にRNAが消滅した数値が確認される。「ノロエース」の卓越した抗ウイルス効果は、この「定量」測定に基づいたものであることから、学術的証明で裏付けられノロウイルス感染症への予防剤として注目される。

一般的にノロウイルス感染予防に有効とされる消毒剤は、次亜塩素酸ナトリウムやポビドンヨードなどが、これらは手荒れや漂白または変色する物質のため使にくい面がある。

アルタンでは、人の手指なども含めて消毒できる「安全」な抗ウイルス剤の開発を進めてきた。その結果が「ノロエース」だったと言える。

ちなみに、その成分を細かく紹介すると、次のような構成(重量%)となっている。エタノール50.18%、クエン酸1.60%、クエン酸ナトリウム0.50%、グリセリン脂肪酸エステル0.50%、柿抽出物0.30%、グリセリン0.20%、精製水46.72%。

柿の渋がエタノール製剤に抗ノロウイルス効果を持たせることが、共同開発のポイントになっており、古来「切り株に柿渋を塗ると長く腐らない」と言い伝えられた庶民の知恵が、学術研究・化学の中でも生かされたのは、奇跡の出会いとも言える。「柿渋は古くから漢方薬や民間治療薬として用いられてきました。また、食品添加物としての安全性に問題はなく、安全な消毒剤として、さらにはノロウイルスによる感染性胃腸炎の治療薬としても大いに期待できると思っています」：広島大学、島本整准教授はこうも語っており、将来は、ノロウイルスの治療薬の開発にも一役買おうである。